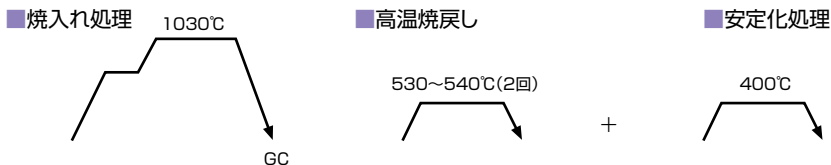


高温焼戻しをした場合、残留オーステナイトの分解反応に伴う経年変化が問題になる場合は「安定化処理」追加により、経年変化を極小に抑える事ができます。

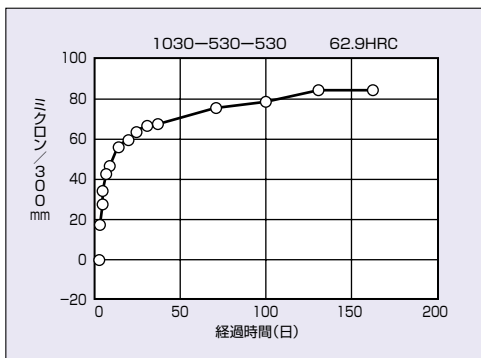
## 経年変化処理:安定化処理

- 高温焼戻しの場合経年変化(寸法膨張)が生じます。(SKD11も同様に経年変化が生じます)
- サブゼロ処理(-70~-196℃)では経年変化を完全に防止ができません。
- 安定化処理の実施で経年変化が極小に抑える事ができます。
- 低温焼戻しでは経年変化が生じません。

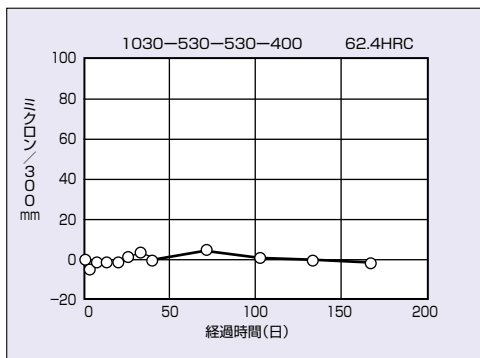
## 安定化処理



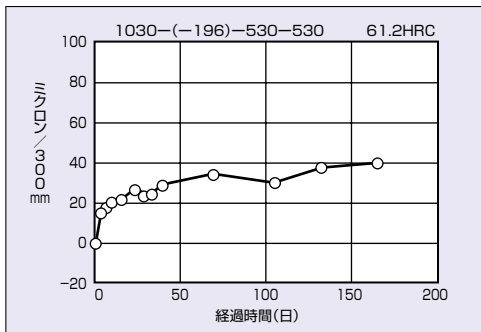
■ 530℃経年変化



■ 400℃安定化処理



■ サブゼロ処理



■ 低温焼戻し

